

私事ですが、先日の8月21日(木)早朝、母が91歳の生涯を閉じました。朝6時、兄からの電話を受け、「危篤」の知らせ。間に合うだろうかと案じながら、広島駅8時22分発の”のぞみ”に乗りました。母が入院している病院(岩手県釜石市)までは、約10時間を要します。間に合っただけと願いましたが、想いが叶わず、最期を看取ることはできませんでした。

8月26日(火)、2学期がスタートしました。私にとっても一念発起、生徒と共にリスタートです。

さて、パソコンに保存している写真を何とはなしに見ていると、右の写真が目飛び込んできました。かつての鈴峯の通学路、「銀杏並木」の夏と冬の風景です。今は跡形も無くなっていますが、忘れてはならない風景の一つです。にぎやかに登下校する女子生徒の声が聞こえてきそうです。リスタートにあたり……



にこやかな、心からの挨拶は、自分の人生を切り拓く

この言葉は、6月16日(月)の全校朝礼の講話の中で生徒に伝えた言葉です。そのときの話の内容はおおよそ以下の通りです。

年度初めに話した「8つのマインドセット」、その中に「礼儀(特に挨拶)を大切にしよう」という項目がありましたね。中高1年生以外の生徒は、「挨拶の大切さ」について私から何度も話を聞いていますね。今日はその挨拶について話します。これを見てください(紙を提示する)。

「にこやかな、心からの挨拶は、自分の人生を切り拓く」

これはどういうことでしょうか。私は、およそ一つ屋根の下で過ごす人同士(家、学校など)、友人、知人、ご近所の人などと接するときの最低限のマナーだと思っています。挨拶することで相手に安心感を与えます。相手に好印象を持ってもらえます。相手は思わず話しかけたくなるでしょう。相手は、あなたに何かを委ねたくなります。徐々に相手との信頼感が生まれてくるはず。すると、思わぬチャンスが何かの形で訪れる可能性があるかもしれないのです。

挨拶は skill スキルではありません。will ウィルです。挨拶の習慣を持った人の磨かれた意志、心のあり方になるのです。中高生のうちに、このwill ウィルを磨いておきましょう。みなさんのほとんどは、とても気持ちのいい、清々しい挨拶ができています。しかし、残念ながらこちらが挨拶しても挨拶を返すことができない”反抗期”の人が何人かいます。私は、自分磨きのチャンスを自ら放棄していると思っています。損をするのは自分ですよ。社会人になってしまったと思っても手遅れなのです。

にこやかな挨拶の習慣を身につけることは、ひょっとしたら自分の人生を左右するぐらい大事なことになるのだらうと思っています。

あれから2か月余り、どれくらい挨拶ができていますか、挨

拶の習慣が身につけているかということ意識して生徒の様子を見てみると、以前より挨拶ができています。実感しています。

例えば、7月に行った「学校評価アンケート」の「20. 挨拶をする生徒が多い」という項目では、生徒、保護者、教員の回答とも昨年度よりもポイントが上がっています。より実感できる数字なのではないでしょうか。

例えば、毎日のように学校にはお客様が来校されます。すべての方に本校生徒の様子をうかがうことは難しいのですが、私を訪ねて来られたお客様には、「生徒の様子はいかがですか」と、ときどき尋ねることがあります。するとその方は、「いやあ、素晴らしいですねえ。気持ちのいい挨拶をしていただきましたよ。他の学校ではなかなかこんなことはないですよ」と言っていただきます。社交辞令ですかと返すと「いえいえ、本当ですよ」と。

例えば、先日、広島修道大学新任職員研修の一環で本校に数名の新任職員が来校されました。私が不在だったので、副校長先生から大学との連携や本校の特徴などの説明を聞いていただいた後、校舎見学をしていただきましたが、休憩時間と重なって生徒の様子にも触れることができたということでした。後日、新任職員の方からお礼のメールが届きました。その中に校舎見学をされたときの感想に合わせて、「きれいに整備された校舎はもちろんのこと、貴学の生徒さんの目がみなさん輝いており、明るく挨拶してくださって、たいへん素敵な学校であることを体感することができました」と書かれてありました。嬉しいです。

例えば、こうして「羅針盤」を作成しているときに、卒業生2人(姉妹)が校長室を訪ねてくれました。お姉さんは先日6月、本校に教育実習に来ていましたが、校長室に向かう途中でその時の生徒に偶然出会い、「先生、こんにちは。お元気ですか?」と気さくに声を掛けてくれたそうです。「校長先生、協創生って、本当に気持ちのいい生徒ばかりですよ」と話してくれました。

挨拶というwill ウィルをどんどん磨いていきましょう。やがて、誰からも信頼を寄せられる人になるはず。や